

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	15S3025	院生氏名	櫻田 弘治
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	心不全患者の各死因と Obesity paradox の関係		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>【博士論文の概要】 櫻田氏の博士論文の概要は、次の通りである。 本研究において、Shinken データベースの心不全患者 5, 623 例を初診時の検査データをもとに、日本人の肥満症診断基準によって、総死亡をアウトカムとした Obesity paradox が成立した。死因年率は低体重群が 3.3%、普通体重群が 1.63%、肥満群が 0.9%であった。3 群間における死亡年率は、心臓死、大血管死、脳血管死、不明・突然死、非心血管死のどの内訳も、肥満群、普通体重群、低体重群の順になっており、どの死因も肥満群が最も少なくなっていた。研究結果より、慢性心不全患者の予後は低体重群が不良、肥満群が良好であることが結論づけられた。さらに、心不全患者の Obesity paradox 現象は、総死亡に留まらず、多様な死因に関係することが分かった。BMI が予後指標になりうることにより、今後の心不全治療において、BMI を増加させることが予後を改善させる可能性があると考ええる。</p> <p>【研究方法(倫理)と論文の構成】 研究方法是 Shinken データベースの項目について、課題ごとに適切な分析方法で検討が進められている。また、研究は国際医療福祉大学の倫理委員会の承認および心臓血管研究所の倫理委員会の承認のもと実施されており、倫理的配慮に問題はない。論文の構成は、多くの研究データの分析を丁寧に分割し論述している。</p> <p>【研究の新規性について】 本研究の新規性は、日本人の肥満症診断基準による Obesity paradox の検討と、死因別に BMI と比較検討した点である。本研究は心不全患者の予後の改善、障害の発生予防に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>【審査経過と口頭試問の結果】 3名の審査委員全員が出席のうえ、平成29年11月30日に審査会を開催した。審査員からの指摘事項に対して博士論文の修正を求め、適切に修正された。口頭試問に対しても適切に応答した。</p> <p>【合否判定】 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査 西田 裕介 副査 丸山 仁司 副査 辻 稔		